

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	海外授業及び海外フィールド・ワークの実践（継続）				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	奈倉 京子
		所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	米野 みちよ
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	堀内 賢志
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進

講演題目	コロナ禍において海外授業に代わる教育とは何か
------	------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】国際関係学部のアドミッション・ポリシーには、「国際社会で活躍できる人材の育成を目指す」、「21世紀型地球市民としての優れた人材の育成を目指す」と序文で明記されている。しかし、実践的な海外授業を実施する科目が国際関係学部にはない。新鮮な国際感覚の獲得、直に触れる国際関係、異文化理解、多文化共生体験、危機管理・対応、留学・海外就職先の選択、習得言語の実践等において、海外授業の必要性は論をまたない。それを補うため、海外協定校等との合同授業、各自のテーマに即したフィールド・ワークを学生と共に行うことで、これらを養うことを目的とした。</p> <p>【成果】新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、出国が事実上無理であり、海外渡航を伴う教育を展開することは断念した。海外協定校等とのオンラインによる合同授業、地域研究の専門家、海外事業にかかわる実務者、そして本プロジェクトに参加経験があるOB/OGの対面またはオンラインの講演やワークショップを企画することに切り替えた。具体的には、東西大（韓国）とのオンラインによる日韓学生合同セミナー、卒業生OGの愛知県職員による海外経験卓話、ソウル特派員経験がある毎日新聞記者による特別講義、卒業生OGの浜松ホトニクス社員による海外経験卓話、浜松在住のフィリピン人歌手による特別講義、多国間の大衆文化を取材するライターによるワークショップなどを実施し、学生の海外事情リテラシーを養い、知的関心に応えるようにした。</p> <p>とくに、卒業生OGの経験談を卓話は初の試みであり、教育的な効果が大きかった。また、東西大との間で「コロナ禍の大学生活をどう過ごしているか。そして、日韓関係をどう見ているか」というテーマでの議論となったが、自らの意見を外国語でも発言するという国際セミナーのような経験をすることができ、一定の自信感を醸成することとなった。なお、大手メーカーの元モスクワ事務所長による実務者の特別講義を3月に計画していたが、ウクライナ情勢のあおりを受けて、実施を断念した。</p> <p>【今後の展望】コロナ禍において海外授業に代わる教育として、海外協力校とのオンラインによる合同授業、OG・専門家・実務者による特別講義等（対面・オンライン）は、国際関係学部のアドミッション・ポリシーを具現化させるうえで有効であることは間違いない。それでも、一義的には海外渡航を伴う海外授業の実施を目指すことを引き続き目指したい。なぜならば、論理的思考力、事前準備する文章の読解力や表現力、当該国に関する基礎知識と語学力、知的好奇心、探究心を満たす効果はカバーできるが、学生のコミュニケーション力、情報収集力、他者理解に必要な想像力を育むうえでの効果は、海外での直接体験が不可欠であるからだ。</p>
-----------------	---